



Google Scholar の使い方

井上智奈美

I. Google Scholarって？

初めて見たとき、読めなかった。

カタカナで表記するとグーグル・スカラーである¹⁾。

Google Scholar は、Google が提供する検索機能の一つで、2004 年の 12 月に公開されたベータ版から始まっている¹⁾。

医学生物学系に限らず、自然科学・社会科学系など世界の膨大な学術資料を簡単に検索でき、「分野や発行元を問わず、学術出版社、専門学会、プレプリント管理機関、大学、およびその他の学術団体の学術専門誌、論文、書籍、要約、記事を検索でき」²⁾ る。

つまり、Google Scholar で検索すると学術情報に特化した検索結果が表示されるのである。文献を探しているときに、通常の Google 検索のように文献以外のもの（インターネット上にあるあらゆるドキュメント）が検索対象となり検索結果に多くのノイズが入ってしまう、といったことが起こらない。

Google Scholar には次の 3 つの特長があげられる。

1. オンラインで文献が読める

検索結果の文献にリンクページが設けられており、その場で文献の本文を読むことができる。ただし料金やアクセス権などを理由に読むことができない場合もある。

2. 同一文献がひとつの結果で表示される

通常の Google 検索では検索結果に同じ文献を複数みることがあるが、Google Scholar ではイン

ターネット上に散らばる同一文献をひとつの結果にまとめて表示してくれる¹⁾。

3. 文献の引用関係がわかる

検索結果の文献データに「引用元+数字」の表示とリンクがついており、その文献がほかのどの文献で引用されているか、またその引用された回数が表示される。

検索対象の範囲や検索結果の表示など PubMed とは異なるところも多いが、病院図書館で利用するツールとしては、PubMed と同様に重要な存在となってくるとされる Google Scholar について、なるべく初めて使う人向けに説明してみる。

II. Google Scholar の使い方

1. アクセス方法

<http://scholar.google.co.jp> にアクセスする。または、通常の Google 検索画面の右上にある「もっと見る」→「さらにもっと」で進んだ画面からアクセスすることもできる（図 1）。

2. 検索方法

Google と同様に、キーワードを入力し Search ボタン（虫眼鏡の）をクリックする（図 2）と検索結果が表示される。

入力するキーワードは英語でも日本語でもよい。ただし、自動マッピング機能などはないようなので、思いつくキーワードはできる限り入力した方がよいかもしれない（「大腸がん」はヒットしたが、「大腸癌」はヒットしなかった）。

そのほか、2 語以上を掛け合わせる場合はスペースで区切る（AND 検索）、2 語以上のい

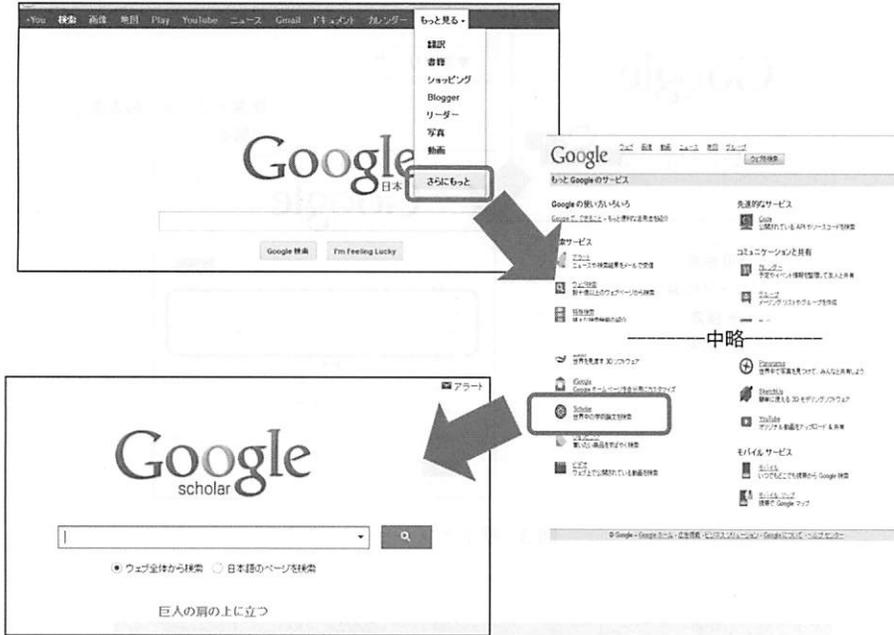


図1 Google Scholar へ



図2 検索画面

れかを含んだ検索をする場合は「OR」を間に入れる (OR 検索)、あるキーワードを省きたい場合はそのキーワードの直前にマイナス記号をつける (NOT 検索)、2 語以上をフレーズとして検索する場合はダブルコーテーション “ ” でくる (フレーズ検索)、などの方法がある。これらの検索は、検索オプションを利用してもできる (図3)。また、検索オプションでは、検索

対象にする場所、著者、出典、日付を指定しての検索もできる。

3. 結果の見方

試しに「大腸がん」で検索した結果を示す (図4)。

検索結果には、全文へリンクされた文献のほか [引用] という記載がある。これは引用部分のみが表示されており、全文へのリンクがな

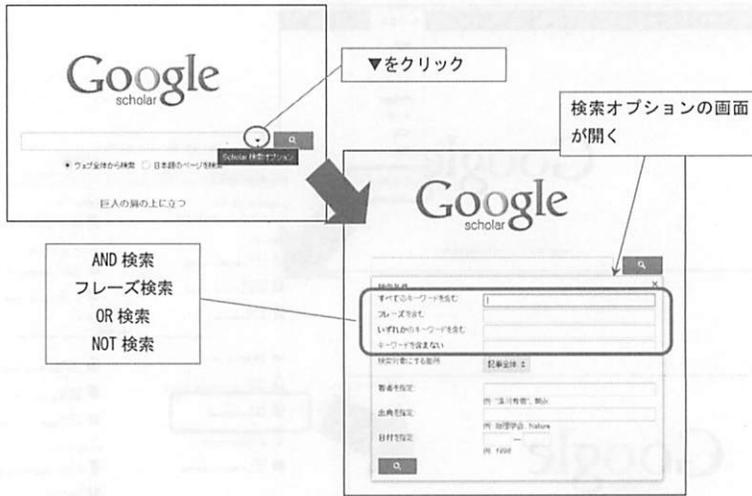


図3 検索オプション

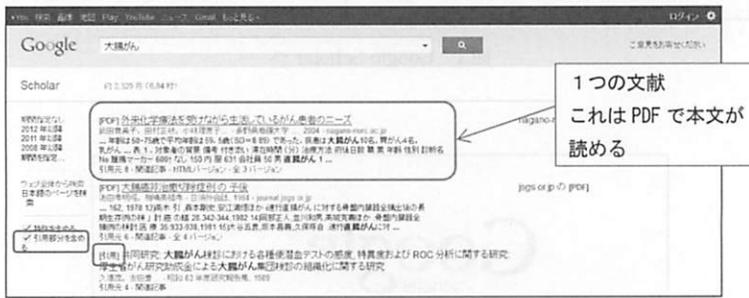


図4 検索結果例1

されていない(抄録や要約までは表示されることもある)。そのため、全文閲覧可能なものだけにすることは、画面左にある「引用部分を含める」のチェックをはずすとよい(図4)。

検索結果の表示内容を図5に示す。

検索結果の表示順は、「Google ウェブ検索と同様、最も関連性の高い情報がページの上に表示され²⁾る。新しいもの順や引用数が多いもの順ではないらしい。

4. 引用の見方

Google Scholar では、引用件数を見ることができる。インパクトファクターなどにあらわされるように、学術文献において被引用数はその文献のレベルを示す一つの基準とされている。

必ずしもそうであるとは限らないが、よく見られている文献、いま人気のある文献、という見方はできる。

引用元の数字は、この文献を本文中に引用しているほかの文献の数を示している。クリックすると、引用している文献のリストを見ることができる(図6)。

III. その他の機能

1. Google Scholar 設定

Google Scholar では、利用者の好みに合わせて設定をいくつか変更できる。画面右上にある設定をクリックすると設定画面が開く(図7)。

検索結果の設定画面では、結果表示件数の変

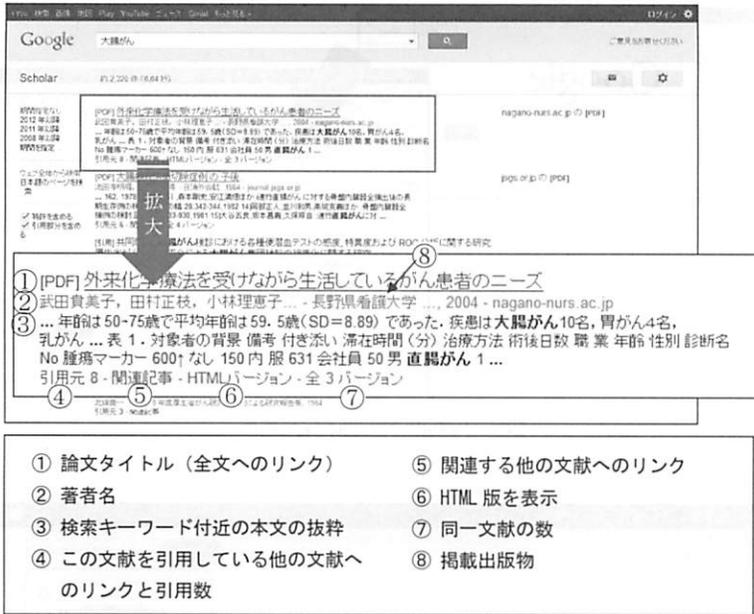


図5 検索結果例 2



図6 引用文献の例

更、ブラウザウィンドウの設定、EndNote などの文献取り込みリンクの表示などが設定できる。

言語の設定画面では、表示する言語の設定や検索する言語の範囲を変更できる。

それから、図書館リンクの設定画面がある。



図7 Google Scholar 設定画面

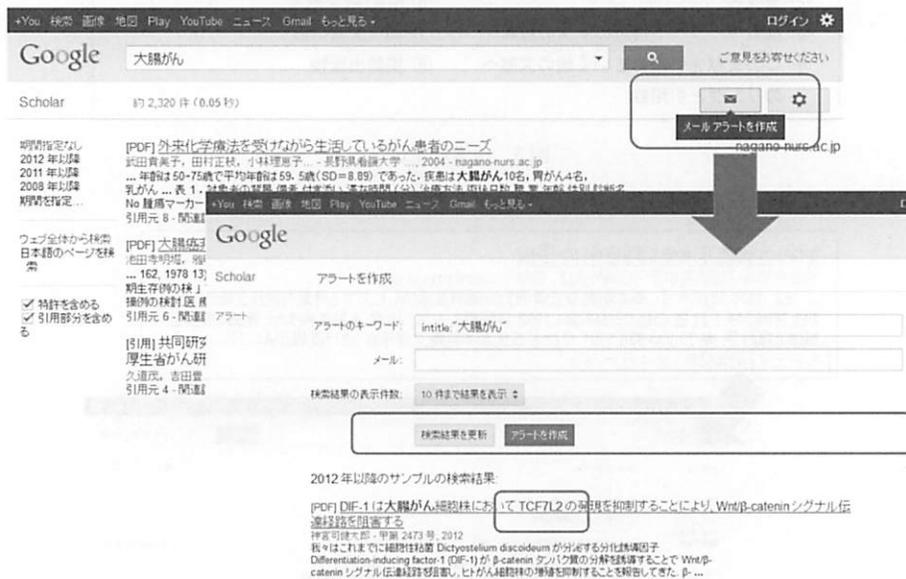


図8 メールアラート

リンクリゾルバ[※]がある図書館であれば、Google Scholar の図書館リンクをつけることができる。すると、Google Scholar の検索結果から全文を見るときにその図書館のリンクリゾルバへアクセスできる。図書館リンクを設定した

※ リンクリゾルバ

さまざまなデジタル資源（文献データベース、電子ジャーナル、図書館蔵書検索システム（OPAC）など）を相互にリンクさせ、必要な文献をすぐに入手できるよう支援するシステムです⁵⁾。

図書館を利用する場合には、便利である。

2. メールアラート

検索キーワードを登録すると、指定した検索キーワードに一致した新しい検索結果をメールでお知らせしてくれる。登録は検索結果の右上にあるボタンから行う（図8）。送ってほしいメールアドレスを入力し、アラートを作成ボタンをクリックする。興味ある分野についてのキーワードを登録しておく、いち早く最新情報を入手できるので、研究者には重宝されるだろう。

IV. 使ってみよう

NACSISなどで探してみたけれど見つからなかった場合、Google Scholarで探してみたら見つかった！なんてことがある。文献検索をするときは必ずGoogle Scholarを最初に使う、ということは少ないかもしれないが、困ったときにアクセスしてみてもいいだろうか？

参考文献

- 1) ウィキペディア, Google Scholar. [引用 2012-07-09]
http://ja.wikipedia.org/wiki/Google_Scholar
- 2) Google. Google Scholar について. [引用 2012-07-09]
<http://scholar.google.co.jp/intl/ja/scholar/about.html>
- 3) Google. Google Scholar ヘルプ. [引用 2012-07-09]
<http://scholar.google.co.jp/intl/ja/scholar/help.html>
- 4) 村瀬澄夫, 丸山康孝. 医療情報収集のためのGoogle活用ガイド. 東京: 中山書店. 2008. p. 124-6.
- 5) ウィキペディア, リンクリゾルバ. [引用 2012-08-21]
<http://ja.wikipedia.org/wiki/リンクリゾルバ>